滝高フロンティアサイエンス通信

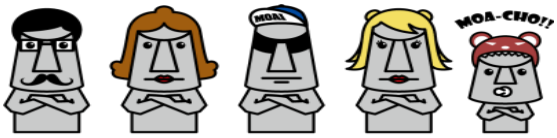
H28.1.9　SSH・理数科
第２０号

道外研修　東北コース（３日目）

報告者：1年F組　加藤綸啓、岸ひかり

気仙沼市観光キャラクター
「海の子 ホヤぼーや」

３日目に行ったところ
- 三陸湾
- リアス海岸
- 唐桑半島ビジターセンター



南三陸モアイファミリー
WE ♥ MINAMISANRIKU

★三陸湾

～海洋実習～

NPO 法人 森は海の恋人副理事長である畠山信さんの案内のもと海洋実習を行った。私たちは船に乗り、カキの養殖場まで行き、船の上で、カキの養殖の仕組みや三陸湾の成り立ち、三陸湾が養殖に適している理由などを学んだ。また、プランクトンネットで海水中のプランクトンを採集したり、その海水を実際に飲んでみたり、カキについている生物を調べたり、カキが養殖されているイカダに乗ったりもした。

カキには、目に見えるものだけでも数百種類・個体数1000以上、全体で数千種類もの生物たちが付着していた。その中には、パエリアの具材に用いられるムールガイの他、ムラサキイガイ、ウズマキゴカイ、ユウレイボヤなどがいた。

そのあと、「九九鳴き浜」という石英の小さな粒でできた砂浜に行った。この浜は靴底などで摩擦を起こすと「キュッキュッ」と音を立てるので、その音を由来として「九九鳴き浜」と名付けられた。

この浜は、東日本大震災によって90㎝地盤沈下したため、浜の位置が移動した。震災後、沈んだ地盤が徐々に戻り、浜の位置が今も移動し続けている。

～NPO 法人 森は海の恋人 舞根森里海研究所～

舞根森里海研究所では理事長の畠山重篤さんによる「森と海をつないでいるフルボ酸鉄」についての講義を受けた。この講義では、「ロシアのアムール川の河口には北海道の面積と同じ大きさの湿地帯があり、そこで生成された豊富な鉄分が三陸沖に流れてきていること」「その鉄分＝フルボ酸鉄の海への効果」などを学んだ。講義の後の昼食時間には、手作りお味噌汁をいただいた！

昼食後、海洋実習で信さんが採集したプランクトンを顕微鏡で観察したり、カキ玉を分解したりした。

☆リアス海岸

～神の倉の津波石～

津波石につくまでの道はあまり整備されていなくて歩きにくかった。この石は、震災時の津波によって入り江に打ち上げられた。石の表面には、貝や無節サンゴモがはりついているので、白く見え、津波前は海中にあったことがわかる。表面の貝はだんだん剥がれているため、〈白い津波石〉は今だけ見ることができる。

石は約 4.5×3.2×1.9m、77t もあり、この巨大な石を打ち上げてしまうほど、津波の威力は強かった。

津波石のすぐそばに、震災時流れ着いた「大黒様の木彫り像」がおかれていた。

～御崎～

御崎とは、唐桑半島を代表する景勝地のひとつ。2億5千万年前頃（中生代三畳紀）に海底に堆積した地層や、その後に隆起し、波打ち際で削られた「海食棚」という地形が見られた。そのごつごつした岩肌のさきには青い海と空が広がっていた。海を見ながら、海食棚の上で、ガイドの千葉さんが用意してくれたお茶とビスケットをいただいた。また、引率の藤田先生が地層・地形について、いろいろと教えてくれた。

帰るときには、中井小学校の校長先生と出会った。校長先生はいつも御崎から My ドローンを飛ばし、海の様子を撮影しているそう。私たちにも実際にドローンを飛ばすところを見せてくれた。

★唐桑半島ビジターセンター

～津波の歴史～

ビジターセンターには、東北や北海道沖で今までに起こった地震による津波の写真や三陸ジオパークの模型が飾られていた。私たち高校生1年生が生まれる前に発生していて、初めて耳にする地震も多かった。

昔のモノクロの写真も、当時の様子を鮮明に物語っていて、2011年の震災と似た光景でもあった。写真は、住民がビジターセンターに提供したため、ネット上にはなく、ここでしか見ることができないものも多い。

～津波体験館～

ビジターセンターには、津波を体験できるところがある。水が流れてくるわけではないが、リアルな波の映像とともに、波を生み出す強さの風が吹いたり、実際に椅子がグラグラと揺れたりした。

このシステムは、東日本大震災よりも前、1984 年に造られた。それまでは、明治三陸大津波や昭和三陸津波などの映像だったが、震災後は東日本大震災の映像に変え、地元の漁師や消防士の証言・地震のメカニズムの説明も追加された。